

ヤマトボンガラ		<i>Festuca japonica</i> Makino	絶滅危惧 I 類
			イネ科
選定理由	自生地が極めて限られているうえに、個体数が少なく、目立たない種であるので見過ごされている可能性がある。		写真(岐阜県博物館) 標本 
形態の特徴	稈は直立し、高さ30-60cm。葉身は長さ5-15cm、幅1.2-2.2mm。花序は長さ8-15cm、。乾燥すると枝は直立して花軸に沿う。小穂は3-4小花からなり、長さ4-6mm。包穎はごく短い。護穎の先に芒はない。		
生態的特徴	イネ科の多年草。花期は6-7月。自然度の高い温帯林の林床に稀に生育する種。本種は美濃帯の古生層、とくに石灰岩が見られるような地域に生育しているらしい。		
分布状況	本州北部から九州に分布し、朝鮮から中国大陸、台湾に分布する。岐阜県では、県南西部でごく稀に見られる。		
減少要因	道路拡張などによる環境の改変が減少の要因。花が小さく地味であるため、存在自体が認識されないまま、森林の伐採などによって自生地が失われている可能性がある。		
保全対策	自然度の高い森林環境の維持など。道路拡張などによる環境の改変は本種の保全に大きな脅威となる。		
特記事項			
参考文献	原色日本植物図鑑・草本編Ⅲ 保育社 1964 日本の野生植物草本 I 単子葉類 平凡社 1982 増補日本イネ科植物図譜 平凡社 1993 長野県植物誌 信濃毎日新聞社 1997		

文責:福岡義洋